

開催日時：1 月 29 日（土）15 時 30 分～17 時

「TEA の最新動向；展結・関係学・イメージーション」

【主発表者（所属先）】

サトウタツヤ（立命館大学）

【連名発表者（所属先）】

ウォーカー泉（シンガポール国立大学）・小澤伊久美（国際基督教大学）・市川章子（玉川大学）・土元哲平（立命館大学）・杉本菜月（立命館大学）

【内容】

フランスの哲学者・シモンドンの展結（transduction）ならびに個体化（individuation）、日本の心理学者・松村康平による関係学、スイスの文化心理学者・ジットウンによるイメージーション（imagination／想像力）、という 3 つの考え方を TEA（複線径路等至性アプローチ）に組み込む可能性を論じる。

展結とは、解がわからない／見えない状況において、新しい次元の導入によって問題解決を図ることである。関係学は関係の構造を、外在・外接・接在共存・内接・内在の 5 つのあり方で考えるものである。イメージーションは日本語の想像と構想が混ざったようなものであり、未来を具体的に展望する力である。

本ワークショップではサトウタツヤによる概説のあと、土元哲平「日本人学校の初任教員の移行過程と展結」、杉本菜月「裁判員裁判のサブシステムの関係変容を関係学で表現する試み」、市川章子「日本語指導が必要な児童生徒の語りをイメージーションで表現する」、という 3 つの話題提供がなされ、小澤伊久美とウォーカー泉によるコメントが討論の口火を切ることになる。